プリンセス 小公女セーラ

第44話

『おお　この子だ』

AR台本

企　画
制　作　日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第四十四話　『おおこの子だ』

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン……………中西妙子
アメリア……………梨羽由記子
ベッキー……………鈴木みえ
ラビニア……………山田栄子
モーリー……………向殿あさみ
ジェームス……………郷里大輔
クリスフォード……………仲村秀生

ラムダス……田中秀幸
カーマイケル……屋良有作
夫人……
ドナルド……堀江美都子
ジャネット……
従僕……

カメラ	画面		音声
1	エミリーと写真にはさまれて眠っているセーラ ゆっくりとT・U ベッドで眠っているセーラ 眠そうに眼をあける はっとなって、首を机の方にまげる		
2	ベットからガバッと起きて、毛布をはねのけ来てテーブルの上を見る		セーラ「………」
3	机の上にはランプのみ		セーラ(off)「……ないわ……」
4	机の上を見るセーラUP 目パチ (off)でノック音 セーラ、ドアの方を見る		セーラ「………」 S・E(off)(トントン) セーラ「ハーイ!!」
5	ドア開いてベッキー入って来る ドアしめ、振り返る		S・E(ガチャ) ベッキー「お早うございます、お嬢様」 S・E(バタン)

	セーラ、急いで入ってくる 肩に手をかけ前に押し出す		セーラ「見てベッキー！」
	A・C		
6	ベッキーの肩を押して机の前に ーセーラ、横にいきながら 机の上を見て、にっこりとする ベッキー		セーラ「……この通りなくなっているわ……！」 ベッキー「まあ！
7	喜びの笑顔でセーラを見るベッ キー		……では、やっぱり昨夜のうちに魔法 使いさんが手紙を受けとって……」
8	大きく叩頭するセーラ		
9	手紙のUP		クリスフォードの声「……この様なお手紙を差 し上げることは、ご自身の深いみ恵み を、 秘密になさってこられた、あなた様に は……きっとご迷惑な事かも知れませ ん……」
10	手紙を読むクリスフォード 途中からセーラの声Wる		
11	クリスフォード声F・Oして 外の公園に雪が降っている カーテンWらし		セーラの声「……でも、今の私は心からお礼を 申さずにはいられないのです……」

	手にビロードクッションをもったラムダス、御主人を見つめて立っている	
12	窓の外は雪	セーラの声「……長い間いつも心傷つき寒さにふるえ、おなかをすかせて来た私とベッキーに」
13	クリスフォード家居間の窓辺でラムダスを前にして手紙を読むクリスフォード	セーラの声「すばらしい幸せを届けて下さった、あなた様に……」
14	じっと満足げな表情で聞きいるラムダス	←〜〜〜〜〜（こぼし）
15	まるで聞いてるかのように首をもたげる犬	セーラの声「せめて感謝の一言を申し上げることをお許し下さい……
16	クリスフォード横顔 手紙を読むクリスフォードの声がＷる	有難うございました。そしてお体を大切に、と……。屋根裏の少女より……
17	手紙ＵＰ	まだ見ぬ親切な魔法のお友達へ……」

	声がしだいにクリスフォードのものになって…		
18	読み終えたクリスフォード、手紙をくい入るように見つめる 満足げな表情―口唇が引きしまり、ゆっくり宙を見上げて―目をつむる		
19	O・L 燃えるダンロの火		
20	O・L 目をつむっているクリスフォード		
21	じっと見つめるラムダス		
22	目をつむっているクリスフォード T・U 目をあけ、手にした手紙を見つめ興奮ぎみに呟く ゆっくりとラムダスを見上げる		クリスフォード「素晴らしい手紙だ…… ……それに、この少女がこれ程、私の 気持ちを読みとってくれていようとは ……」

23	丁寧にうなづくラムダス	
24	ラムダスを見るクリスフォード やや間があってから うつむいてそのまま	クリスフォード「……」 ラムダス「……」 ラムダス「は……？」 クリスフォード「私は今、ひどく混乱している のだ……」
25	ラムダス、怪訝に見る	ラムダス「……？」
26	クリスフォード、苦悩に満ちた 表情で ラムダスに向き、悩をぶつける	クリスフォード「カーマイケル弁護士がパリで 探し出したラルフ・クルーの娘…… もし私が心に描くような優しい娘でな かったとしたら……」
27	これにはラムダスも少々困惑し て見つめる	ラムダス「……」
28	やや間があって 目線をもどしてクリスフォード 手紙を差し出す ラムダス、クッションを出して 受けとる	二人「……」 クリスフォード「それでも私は、その娘に」

29	手をにぎりしめる P A N・U P クリスフォード、苦悩の表情	クリスフォード(off)「親切な魔法使いでいる事が 出来るだろうか……」
30	クリスフォード、顔あげて イスからのり出すように	クリスフォード「判ってくれラムダス……。 正直云って私は今、パリから来る娘に 会うのが恐いのだ……。 いや、心の一部では、その娘が見つか らなかった方がいいとさえ思っている のかもしれん……」
31	ラムダス困惑した表情で	ラムダス「…御主人様……」
32	悲しげなクリスフォード ラムダスを見る間が少しあって またイスに深くもたれかかり右 手に頭をついて首を振る 低い吐息があって 車イスの向きをかえて部屋の中 ほどへ向かう	クリスフォード「……… ……！ 判っている……また私の心の 病いだよ……。 ………」 S・E（キキィ……）
33	手前、車イスを自分で動かして 来るクリスフォード	S・E（キキ…キキ……）

	ラムダス、じっと見つめている セリフ、動いてる途中から 十分手前に来てから止まって		クリスフォード「きっと私は、お前から聞いている隣りの屋根裏の優しく気の毒な少女に、ラルフの娘のイメージを勝手に重ねてしまったのだ……」
34	ひざの上の手を握ぎる		クリスフォード(off)「そう……。私は、二人が同じ一人の少女だったら」
35			クリスフォード「どんなに嬉しい事だろうと……そんな馬鹿気た幻想を抱き続けて来たのだよ……」
36	ラムダス、凝然と見る		ラムダス「……」
37	クリスフォード後姿		クリスフォード「……」
38	セリフにつれて、しだいにうつむきかげんが大きく 目をつぶる		クリスフォード「だが……その馬鹿気た幻想も間もなく、カーマイケル弁護士が連れて来るラルフの娘が、うちこわしてくれる事だろう……」
39	そのUP		クリスフォード「……」

40	やがて大きく息を吸いながら目をとじて顔をおとす ラムダス、体を少しかたむけて クリスフォード頷く		クリスフォード「……ラムダス、港への迎えを頼むぞ」 ラムダス「はい……程なくカーマイケル夫人とお子様達も馬車で見える筈でございますので……」 クリスフォード「………」
41	雪の舞う公園 (off)で馬がぶるぶるとやる		S・E　(ブルブルブル)
42	御者がステップを出してトビラをあける まずドナルドが飛び出てきて 続いてジャネット、夫人 ドナルド、せきたてて自分は先に玄関へ		ドナルド「それ!」 ジャネット「ドナルド!!」 夫人「気をつけて!!」 ドナルド「大丈夫だよ。早く早く!!」
43	ドナルド　バックする 少し下がって待つ　すぐにラムダスが顔を出す		S・E　(コンコン!!) S・E　(ガチャッ)
44	ドナルド、ニッコリ		ドナルド「あ、こんにちはラムダスさん」

45	ラムダス、戸を大きくあけつつラムダスがいいおわらないうちにドナルドは中へ ジャネットとカーマイケル夫人も段を上がって来る ニコニコしながら二人をむかえるラムダス		ラムダス「やあ、お待ちしていましたよ。 さあ、どうぞ……」 S・E（ドタドタドタ…）
46	あきれるジャネットと母 ちょっと立ち止まって顔見合わす		二　人「クスクス……」
47	クリスフォード家　居間 ドナルドがあいさつをする		ドナルド「こんにちは、クリスフォードさん！」
48	ジャネット、　あわててドナルドに注意する		ジャネット「ドナルドったら……！　ごきげん いかがですかって、そう云うのよ！」
49	ちょっとした姉弟げんかが始まりそうになって夫人がたしなめる クリスフォードは明るく笑って		ドナルド「え……どーして……？」 夫　人「これこれ、二人とも……！」 クリスフォード「はっはっは……ドナルドにジャネット、二人ともよく来てくれたね。」

		君たちが来てくれると、私も元気になれるよ」
50	ドナルド、はしゃいでる感じで	ドナルド「でしょ?! だからぼく今日は、本当は港までパパをお迎えに行きたいんだけど、お姉さんと一緒にここでクリスフォードさんのお相手する事にしたんだよ」
51	ドナルド、はしたない口ぶりにマユをしかめる	ジャネット「ドナルドったら……!」
52	クリスフォード、たのし気に笑って 夫人にむき	クリスフォード「はっはっは……そりゃ二人とも御苦労さんだったな……。では迎えの方は、あなたとラムダスに願うとするかな」
53	夫人、ニッコリとして答えて子供達に一言 夫人、クリスフォーにあいさつして	夫　人「承知致しましたわ……。じゃ、あなた方。おとなしく待っているのよ」 ドナルド「うん、大丈夫だよ!」 夫　人「では……」

	クリスフォード頷く	クリスフォード「………」
54	御者が手綱を取ってパシッとやる　馬車動きだす	御者「……それ!!」 S・E（パシッ…ガラガラ……）
55	クリスフォード家の前からはなれて行く馬車	←〜〜〜
56	居間の出窓からのぞいていたドナルド手をふる	ドナルド「いってらっしゃーい!!」
57	ドナルドの様子を見て笑うジャネットとクリスフォード	二人「クスクスクス……」
58	ドナルド、出窓の所でふりむいて 手前へ飛び跳ねながら来て	ドナルド「ねえねえ、クリスフォードさん！ パパがパリから連れて来る女の子って どんな子だと思いますか?!」
59	クリスフォード、一瞬キョトンとなって ちょっと困った表情で考える	クリスフォード「……！ ……ふむ、こりゃ難しい質問だな……」

60	ジャネットがドナルドをたしなめる ドナルド、ジャネットに向き		ジャネット「ドナルド！……そんな事わかるわけないじゃない」 ドナルド「だって、ぼく
61	ドナルド		どうせお友達になるなら、あのマッチ売りの少女みたいな優しい人がいいもの」
62	クリスフォード、ふと興味をひかれて顔をあげ		クリスフォード「ほう、マッチ売りの少女などに知り合いがいるのかね？」
63	ドナルド、再びクリスフォードに向き		ドナルド「ええ、前から知っているとても可哀想な女の子なんです」
64	ジャネット、クリスフォードに向く クリスフォードもジャネットに向く		ジャネット「お父様もお母様も亡くなってしまったらしいんです……」 クリスフォード「……?!」
65	ジャネット、真剣な目つきで		ジャネット「でも、ママのお話だと、とってもお育ちが良かったに違いないんですって」

66	クリスフォードも真剣に聞いてる		クリスフォード「ほう……」
67	ドナルド、話しはじめる ジャネットとクリスフォード、ドナルドに向く		ドナルド「その子がね、この間馬車で通ったら雪の中でマッチ売りをしてたんです。それで、ぼくマッチを買ってあげたんですよ」 クリスフォード「ほほう……それは感心な事をしてあげたね！」
68	クリスフォード、さらに関心をもって聞く		クリスフォード「……で、そのマッチ売りの少女は、なんて云う名前なんだね？」
69	ドナルド肩をすくめて		ドナルド「それが判らないんです……」
70	クリスフォード、少々あてはずれの感じ しかし、さらに聞く		クリスフォード「ふむ……。では……住んでいる所は？」
71	こんどはジャネットが答える クリスフォード、ジャネットに向く ドナルドが答えるとクリスフォ		ジャネット「それも判らないんです」 クリスフォード「…判らない……?!」 ドナルド「ええあれからもう一度、馬車で同じ

	ードもジャネットもドナルドに向く ドナルドのセリフ後、クリスフォード、再びジャネットに向く ジャネット「その通りだと」とうなづく	所を通ったんですけど、その時はもう別の女の子がマッチを売っていて……」 クリスフォード「……」 ジャネット「……」
72	クリスフォード、大きくため息をつきつつ、イスに深くもたれる	クリスフォード「ふうむ……」
73	ドナルド、少しのり出して	ドナルド「ぼく達、心配してるんです。あの女の子に何か変った事が起っちゃったんじゃないかって」
74	ジャネットうなづく	ジャネット「……」←〜〜（こぼし）
75	クリスフォード目線おとして考え込む	クリスフォード「成程……」
85	ダンロの火 そこへ更にシャベルで石炭をく	

	べるベッキーの手 激しく上がる炎		
86	石炭バケツからシャベルで石炭をすくってダンロに入れるベッキー		S・E　（ガサガサ ザッ!! ガサガサ…… ザッ!!）
87	激しく上がる炎の照り返しがベッキーの顔や体に 本をおいてセーラ、ベッキーの方を向いて　微笑んで 肩をすくめて想い出し笑いをするベッキー ?!　となるセーラ		セーラ　「有難とう、ベッキー……とても温くなったわ」 ベッキー「クスクスクス……おかしいんですよモーリーさんもジェームスさんも！……」
88	ベッキー、セーラの方に向いて クスンと笑う		ベッキー「……院長先生に云われたとかで、お嬢様のこのお部屋には、石炭を充分たくようにですって、ククク……」
89	セーラ、びっくりしたようなあきれたような		セーラ　「まあ……」

90	立ちあがり机に手をつき、セーラをのぞきこむように 微笑むセーラ 一層、身をのり出し顔をセーラに近づけるベッキー		ベッキー「……みんなお天気でも変るみたいに急にお嬢様に対する態度が変ってしまって……きっとあの魔法使いさんからの小包みのおかげですわ」
91	うなづき微笑むセーラ		セーラ「…そうかも知れないわ……」
92	我が春を得たりと大きくうなづくベッキー 体を起こすベッキー 背を見せたらしゃがむベッキー		ベッキー「…でも、よかったですわね……」
93	しゃがんで石炭バケツを手に、振り返るベッキー 天窓を見上げるベッキー		ベッキー「この雪では暖炉の火なしじゃ、それこそ凍えてしまう所でしたもの」
94	セーラもつられて天窓を見上げる		
95	ドンよりとした空に雪が降りつづいている		

	―間― 屋根に積った雪がはね上がるのが見える		
96	セーラ、はっと気がついて		セーラ「あら……?!」
97	二人、見えかくれする動物の姿を見ようと体を動かす		セーラ「まあ……あそこになにかいるわ」 ベッキー「ええ……」
98	ゴソゴソと動くカゲ ラスト、サルのしっぽがながく見える		ベッキー(off)「……まさかシーザーが独りで外に……?!」
99	セーラ、分かって		セーラ「いいえ、猫じゃないわ。そうだわ、もしかしたら……」
100	ベッキー、セーラに向く セーラ、イスをひいて立ちあがると、そのイスに手をかける ベッキーは石炭バケツを下におく		ベッキー「なんですって?!」 セーラ「ベッキー、手伝って！」 ベッキー「は、はい、お嬢様！」 S・E（ガタ）
101	セーラとベッキーでイスを机の		

	上にのせる スリッパを脱ぐ セーラ、机の上にのせる		二人「よいしょっ……」 S・E（ゴトン…） セーラ「………」
102	A・C		
103	窓に手をかけ、セーラ外をうかがうように現れる 急に窓に顔を寄せるスーリヤ そのとたん窓にたまった雪が、スーリヤの顔に 相方びっくりする		セーラ「キャーッ!!」
104	ゆれる足許 支えるベッキー		ベッキー「お、お嬢様!!」
105	懸命に体勢をたて直そうとする 二人　おちつく二人 顔を見合わせてホッとする セーラ、窓の方を向いて		ベッキー「お嬢様!!」 セーラ「フーッ!!　御免なさい、ベッキー!!」

106	窓の外でうづくまるスーリヤ 外を見るセーラ 上がってふりむく		
107	ふるえながらキィキィ鳴くスーリヤ		S・E　（キキキ……）
108	セーラ、窓を開きつ セーラ、やさしく手を差しのべる		セーラ　「やっぱりあなただったのね……どうしたの、こんなに寒いのに…… ……さ、いらっしゃい」
109	スーリヤ、ビクッとなってたじろぐ		S・E　（キキッ……）
110	セーラ、さらに手を差しのべる		セーラ　「さ……」
111	スタートまだキョトンとしているが、思いきったような感じでパッと手前へ来る		S・E　（キキ…… キャ　キャ　キャ……！）
112	セーラの手の中へ飛びこんで行く けっこうな勢いで飛びついたの		S・E　（キャキャキャキャ……）

	でセーラ、少しよろめく		セーラ「おっと……!!」
113	下のベッキーが、力を入れて椅子にしがみつく		ベッキー「お嬢様!!……!」
114	セーラ、ベッキーに向いて云う サルがキーキー鳴く セーラ、サルを抱きしめて、ぬれた体をなぜなぜする		セーラ「大丈夫よ、ベッキー。まあ可哀想に……こんなに冷えちゃってるわ……」
115	ベッキー、心配そうに見上げて		ベッキー「また逃げ出して来たんでしょうか?」 セーラ(off)「そうね……」
116	セーラ、お隣りさんの屋根裏部屋に呼びかけながら		セーラ「ラムダスさん!……ラムダスさん! またスーリヤが逃げて来てますよー!」
117	窓が少しあいているトナリの家		←〜
118	サルを抱いたセーラ 隣家の方を見ている		セーラ「お留守なんだわ……それで、このスーリヤが逃げ出したのね……」
119	ベッキー、おもい出して		ベッキー「そうそう、そう云えば先刻、お隣りから馬車が出て行った様ですが……」

120	セーラ、ベッキーに向いて セーラ、うなづいて窓をしめ始める		セーラ「まあ……困ったわね…… どうしましょうベッキー……」 ベッキー「お嬢様、とに角、おサルを温めてやりませんと」 セーラ「ええ」
A・C			
121	セーラ、窓の戸をしめる もう片方もしめる		S・E　(パタン) S・E　(パッタン)
122	もえるダンロの火		
123	座りこんだセーラのひざの上 丸くなっているスーリヤをやさしくセーラの手が撫でる		
124	スーリヤを見つめる二人 顔を見合わせて、にっこりする二人 又、スーリヤを見る二人		
125	手につかまり、じっとしている スーリヤをやさしく撫でるセーラの手		

126	スーリヤを見つめて撫でるセーラ		セーラ「さ……もう大丈夫よ……温たたかいでしょ……！」
127	ベッキーおもい出したように、頭をもたげて		ベッキー「で……お嬢様、一体どうなさいます、このおサル……？」
128	セーラ、サルをなでながら		セーラ「いいわ。あとで私が返しにうかがうから」
129	ベッキー、びっくりして		ベッキー「そんな！……もし、この学院の中でおサルを抱えて歩いてる所でも見つかってごらんなさいまし」
130	ベッキー、院長の悪口は声をひそめて		ベッキー「院長先生にどんなめにあうかわかりませんですよ!!」
131	セーラ、暗然となって		セーラ「……!! そうね……でもいつまでもここにおいとくわけにはいかないわ。何とかして、お返ししなくては……」
132	ベッキー、言葉につまる セーラ、サルに目をやる ベッキーはセーラを見つめたまま		ベッキー「…でも……」 セーラ「………」

133	キョトンと見上げ、手にしがみついているスーリヤ		
134	セーラ、考えこむ 大きく吐息をはくセーラ		セーラ　「困ったわ、ほんとうに……」
135	出窓に寄って外をじっと見つめているドナルド		
136	雪の降る街 人通りはないようだ		
137	ドナルドの方を見ている車椅子のクリスフォード 傍にひざまつき、肘かけに手をついているジャネット		
138	窓から外を見ているドナルドを見つめるジャネット ジャネット、クリスフォードを見てクスンと笑う		
139	クリスフォードもジャネットを		

No.	内容		台詞
	見て苦笑する 二人、ドナルドを見る		ドナルド(off)「…あーッ！」
140	雪の中を馬車が手前にくるのが見える		ドナルド「…パパたちの馬車だ……!!」
141	緊張するクリスフォード ジャネット、喜びの顔で立ち上がる		ジャネット「え～～ッ！」
142	喜びの顔で振り向くドナルド ジャネット、走って窓辺にいき外を見る 二人、顔を見合わせて笑顔でうなづき合う クリスフォードの方を向くドナルド 元気に走って扉の方へ行くドナルド 行きかけて止まり、クリスフォードの方を向いて礼して扉の方へ走るジャネット		ドナルド「…馬車がー!! パパたちの馬車が帰って来たよ!!」 ドナルド「ぼく……お出迎えに行って来ます！」 ジャネット「あ、待ってよ……！」 ジャネット「ドナルドー！ まってよー!!」

143	クリスフォード、微笑して見送る 微苦笑する　顔を元に戻す 大きく溜息をつき傍のボリスの頭をなでる		クリスフォード「はっはっはっ……慌てなくても馬車は逃げたりはせんぞ」 S・E（扉のしまる音） クリスフォード「クッフフフ……やれやれ……」
144	頭を撫でられ気持ちよさそうにしているボリス		
145	犬を撫でているクリスフォード 手の動き止まる　じっと目を閉じる		クリスフォード「…ラルフの…娘か……」
146	肘掛をにぎる手を見ていたボリス、クリスフォードを見る		
147	考えこみ、冥目しているクリスフォード		
148	ダンロの燃える火		
149	冥目しているクリスフォードを見上げているボリス　T・B		

カット	内容	秒	セリフ
	室内にぽつんと一人		S・E（勢い良く扉のあく音）
150	勢い良く入ってきたドナルドは、う、となって止まる 扉より手をはなしポカンと見つめる		ドナルド「クリスフォードさん!!」
151	力なく下がっているドナルド、 冥目しているクリスフォード		
152	ポカンとして見つめるドナルド 力なく入ってくるジャネット う、となってドナルドを見つめる ドナルド、姉を見上げて二人、目を交す ドナルド、目を下におろし視線を姉からそらす 姉、クリスフォードの方を上目使いに見て		ジャネット「…あ…あのオ…あのオ……」
153	冥目しているクリスフォード		←〜（こぼし）

ゆっくり目を開けるのを見て、
ほっとしたジャネット
小さく溜息をついて、振り返る
カーマイケル夫人が現れる
姉、夫人にしがみつく

154

夫人、やさしく肩に手をかけて
姉を安心させる
にっこりとして姉の肩をだくよ
うにして中へ入ってくる夫人

155

肘掛けをにぎりしめ、宙を見つ
め車椅子からのり出そうとする
が――
腰をおとすクリスフォード氏
何かおちつかないのである
扉を見たり
しかし、見るのが恐ろしい心の
迷いが決断を明確に出来ない状
態――

156

苦しい顔のクリスフォード

157	母に抱きついている姉弟 肘掛けを指をたててこすってい る手　ラムダス、トランクをも って入ってく　壁側の方へ行く （out） カーマイケル入って来る 夫人と顔を見合わせるカーマイ ケル		
158	心配げに見つめる夫人 大きくうなずき、クリスフォー ドの方へ歩き出すカーマイケル 見送る夫人		
159	クリスフォードの方へ進み、止 まり一礼するカーマイケル		カーマイケル「パリより……ただ今戻りました…」
160	老従僕がゆっくりと扉をしめる 扉のしまる音をきいたクリスフ ォードゆっくりと目をつむり口 もぎゅっとしまる		
161	クリスフォードを見つめるカー		

	マイケル　外は降りつづく雪		
162	じっと冥目しているクリスフォードを見つめるボリス――暖炉には燃え火		
163	クリスフォードを見つめる一同 カーマイケル　ゆっくりと夫人の方を見て		カーマイケル「お前たちは、退っていておくれ」
164	子供二人を傍にした夫人 夫人と姉、スカートをつまんで一礼する　弟も軽く会釈をする		夫　人「はい……」
165	じっと夫人の方を見ているカーマイケルと冥目しているクリスフォード カーマイケル――クリスフォードの方を見る		S・E（扉の開閉音）
166	口唇をかみじっと見つめていたカーマイケル　うつむいて		カーマイケル「……実は……お詫び申さねばならぬ事が起こりまして……」

167	目をゆっくりと開けるクリスフォード氏――カーマイケルを見上げる		
168	一度目を上げてクリスフォードを見るが――又目をおとして		カーマイケル(on)~(off)「……先日、パリより……ラルフ・クルー氏のお嬢さんが見つかった事、及び、そのお嬢さんを連れて帰る旨、手紙で御報告いたしましたが帰国直前になって……」
169	クリスフォード呟くように低く		クリスフォード「……人違いだったのかね」
170	申し訳なさそうに頭をたれる		カーマイケル「……はい……」
171	目でうなずくクリスフォード		
172	クリスフォードを見つめるラムダスとカーマイケル		カーマイケル「……パリ新聞に出した尋ね人の欄を見て、財産目あての連中が仕組んだ
173	きっとなり手を握りしめるラムダス		(off) 事と判りまして……」
174	怒った表情で顔をそらすクリスフォード　肘掛けを強く握って		

175	燃える火		
176	うつむきぎみのカーマイケル		カーマイケル(on)〜(off)へ「……それまでにも、パリ中の寄宿学校を探し尽したのですが残念ながら……
177	顔をそらしているクリスフォード　強く握られるカーマイケルの手		(off)　クルー氏のお嬢さんに該当する女生徒は発見出来なかったのです……」
178	肘掛けを強く握る手		
179	懸命にこらえようとして平静を見せかけるクリスフォード　力抜けていく　手の力抜けて肘掛けからはずれる		クリスフォード「……覚悟はしていたよ!!　……カーマイケル君……覚悟は……」
	A・C		
180	だらんとするクリスフォードの手		
181	うなだれるクリスフォード　走りよる二人　ラムダス、手を毛布の中に入れる		

182	起き上がりカーマイケルの方を見て、目でうなずくラムダス		
183	目を閉じたまま微か首を振るクリスフォード		クリスフォード「……大丈夫だ……私の神経は 未だ耐えられる…… 〜 多分、こうなることを予想していた為 だろう…… 〜 こうなることを……」
184	心配げに見つめるカーマイケル		
185	悲痛な顔のクリスフォード 歯をくいしばりこらえている		
186	うなだれているクリスフォードを見つめていた二人、茫然と顔を見合う		
187	動かない三人		
189	外は雪が降りつづく		
190	燃える火の前で猿をさすり乍ら座っているセーラ		

191	セーラにやさしく撫でられるス ーリヤ　小さくうずくまってい る　スーリヤ、セーラを見て、 目を細めうっとりとする 微笑むセーラ 扉の方を見て返事をするセーラ 手の中のスーリヤも目をあけて 延びをして扉の方を見る		S・E　（ノックの音・三回） セーラ　「は…い！」 S・E　（扉の開く音）
192	急いで入って来て扉を閉めるベ ッキー（注・エプロンの下がふ くらんでいる） 振り返りくすんと笑って エプロンの下から買物篭を出し て差し上げる 急いで――手前に来る		ベッキー「さあ…！　お嬢さま ～ お猿をこの篭に入れて……私のショー ルで覆って隠すんでございます」
193	スーリヤを抱え立ち上がるセー ラ――手前からセーラに近づく ベッキー		
194	うなずきにっこりするセーラ 手の中でキョトンとしているス		セーラ　「ありがとうベッキー…！」

	ーリヤ		
195	三階廊下の扉口に小さくうずくまるシーザー ぴくぴくと動く耳――顔を上げて扉を見上げる のっそりと起き上がり大きく背を丸めて延びをする 扉を見つめる――シーザー 扉開いていく――（ゆっくりと） ぐっと見上げるシーザー		
196	ゆっくりと扉を少しあけて窺うベッキー――ゆるむ口許（安心） はっとなって、足許を見るベッキー		シーザー(off)「ニャーゴー！」 ベッキー「どいて……シーザー」
197	扉を開けるベッキー 後に退るシーザー 篭を抱き、その上ショールをかぶせ手で押えたセーラが廊下へ出てくる		シーザー「ニャーゴ！」

198	下を見ながら行くセーラ		セーラ「お願いね……シーザー、騒がないで!!」
199	シーザー、キョトンとして尾を振る		S・E（扉のしまる音） シーザー「ニャーゴ、ニャーゴ」
200	はっとなって振り返るセーラと小走りに奥へ行ったベッキー振り返りざま口に手を当てる		ベッキー「シ——ィッ……シ——ィッ……」
201	鳴こうとして座りこむシーザー		
202	二人顔を見合わせてにっこりとして奥へ歩み出す		
203	だれもいない一Ｆの廊下 アメリアの手びょうしが聞こえる　ベッキーがあたりを窺うように降りてくる 左右、前後とたしかめ、振り返り手を上げる　（二人階段の近くで）　篭をだいたセーラ降りてくる　二人ひそひそと囁き合う		ベッキー「今なら大丈夫でございます」 セーラ「え、ええ」

204	アメリア手びょうし止めて ラビニアを見るアメリア		アメリア「はいそこまで、次は歌の練習ですよ。 ……ラビニアさん……私のお部屋から 楽譜を取って来て下さる？」 ラビニア「はい、アメリア先生!!」
205	院長室の前を抜きあしさし足で 通る二人		ミンチン(off)「え…えっへん（咳払い）」
206	びっくりして止まる二人		
207	院長室のミンチン　デスクで調 べ物をしている		ミンチン「え…こほん……こほん……」
208	顔を見合わせて大きく溜息をつ く にやりとしてベッキー奥の方へ 行く　つづいてセーラも		二　人「フー」
209	地下の段の方へ抜き足さし足で 来る二人		
210	教室の扉をしめて　手前を見て アッとなる		

211	地下の階段の方へ抜き足さし足でいくセーラが見える（out）うかがうように奥へ行くラビニア入って来る		
212	階段を降りて行くセーラ（out）ラビニア来て下をうかがい見る急いで二Fの方へ走る（足音させない走り方で）		
213	立ち昇る鍋の湯気　大口をあいてコックリしているジェームスと突っ伏して寝ているモーリー廊下を通って行く二人（in—out）		
214	扉開いて出て来る二人 セーラ階段の方へ来る　見送るベッキー		ベッキー「さ…もう大丈夫でございます……」 セーラ「有り難うベッキー」
215	くもった二Fの出窓のガラス手でくもりを拭いているラビニア——はっとなって窓外を見る		

	ラビニア		
216	セーラが雪の降る中を行くのが見える		
217	凝然とした顔で見送っているラビニア		
220	暖炉の火を前にしたクリスフォード氏、うつむいたままじっとしている　苦悩に満ちた表情である		
221	椅子に手をかけじっと考えているカーマイケル 暖炉の前のクリスフォードの後に立つラムダス、じっと主人を見守る 顔を上げ――クリスフォードの方を向くカーマイケル		カーマイケル「……クリスフォードさん……」
222	うつむいたまま動かないクリスフォード		

223	前に出るカーマイケル		カーマイケル「……実は、フランスからの船の中で、ずっと考えていた事があるのです」
224	うつむいたままのクリスフォード・カーマイケルの方を見るラムダス		
225	近づいて のぞきこむように		カーマイケル「我々は亡くなったクルー氏の奥さんがフランス人だったと言う事を手掛かりにパリを探して来た訳ですが‥もう一つ重大な手掛かりを忘れていたのでは ないかと……」
226	目を細め、ぎゅっと口唇を引きしめるクリフォード		
227	じっとクリスフォードを見つめて 椅子に座り、のり出すようにして		カーマイケル「そうです……クルー氏が生まれたこのロンドンですよ……。改めてロンドンの学校を探して見るのです」
228	う――となり、ゆっくりと顔を上げてカーマイケルを見るクリ		カーマイケル「ロンドンには、沢山の寄宿学校があります……」

	スフォード	
229	カーマイケル、一層のり出して	カーマイケル「そう……そう言えば、この隣りも寄宿学校でしたね」
230	大きくうなずく	クリスフォード「そうだ……隣りには……今、私の心を大きく占めている少女がいる」
231	カーマイケル「?」	カーマイケル「はあ…!」
232	目線をそらし車椅子にもたれる 目を細め宙を見つめる 首を小さく左右に振る 目をつむっていく	クリスフォード「だが……その少女は、生徒ではない…… ……貧しい、かげりのある、メイドの少女だ………あのラルフ・クルーの娘などでは、とうていありえない子なのだ……… 残念な事だがね……」
233	カーマイケル、目線を下におとして	カーマイケル「成る程……そうだったのですか…」
234	目をつむったままのクリスフォードと口唇をかみしめうなだれ	

	ていくラムダス 顔を上げてクリスフォードの方を見るラムダス		S・E　（呼鈴の音）
235	玄関ホール　従僕二人現われ手前に		
236	篭を抱きかかえ立っているセーラ　手を合わせた礼から起き上がる従僕たち　雪が室内に舞い込む		セーラ　「突然おうかがいして……実はこちらの猿が…… 〜 私の屋根裏部屋に逃れて来たので……」
237	初めぽかんとしていたが、二人の従僕顔を見合わせて肩をすくめ合い——セーラを申し訳なさそうに見る		
238	二人の顔を見較べるセーラの困った顔 くもる眉　篭にかぶせたショールが動く——手で押えるセーラ		セーラ　「あ……あ……言葉が通じないのね…」
239	?!　となって　顔を見合わせ、		

	首をひねる二人		
240	顔を上げて微笑み		セーラ　「……ナマステ……！」
241	従僕二人微笑して、顔見合わせる 二人手を合わせ一礼する セーラも微笑して目礼する 三人顔の方を見る		二　人　「オウ……!!　ナマステ！」 ドナルド(off)「あ…君じゃないかー！」
242	廊下の奥にびっくりして立ち止まるドナルド		
243	まあ！　とおどろくセーラ		
244	ドナルドの傍に来る母とジャネットもおどろき見つめて		
245	茫然となるセーラ		セーラ　「まあ…あなたは……」
246	従僕二人呆気にとられ顔を見合わす セーラ、丁寧に一礼する		

247	母とジャネット、軽く会釈をする ドナルド、前に出ていく （小走りに）		ドナルド「驚いたなあ、……一体どうして…… 〜 この家へ……」 ラムダス(off)「お……これは 〜 お隣りの屋根裏の……」
248	セーラの前に行くドナルド セーラ何か言おうとしてドナルドの方へのり出す―― はっとなって奥を見るセーラ		
249	手前に歩いてくるラムダス		
250	ほっとした喜びの表情になるセーラ		セーラ「ラムダスさん……！」
251	スカートの裾をもって一礼する セーラに合掌して答えるラムダス ケゲンな顔でセーラを見る		セーラ「……今そちらの窓から逃げて来たスーリヤをお届けに……」 ラムダス「は…スーリヤを……」
252	篭にかぶせたショールをはねのけ飛び出していくスーリヤ 驚くドナルド		

No.	画面		台詞
253	肩にとびついたスーリヤを手で支える スーリヤ、ラムダスの肩にしがみつき喜びじゃれる やさしくスーリヤを撫でるラムダス		ラムダス「……スーリヤ……！」 スーリヤ「キキ……キキ……」
254	肩で喜ぶスーリヤを見つめてにこにこしているセーラとドナルド		
255	ジャネットと夫人にこにこと見ていたが顔を見せて、どういうことなの、　判らないわといった顔になる		
256	セーラ中へ入って――扉閉められる　雪がさんさんと降りそそぐ		
257	扉、勢い良く開いてドナルド入って来る 静かにせよと制するカーマイケ		ドナルド「パパ……大変だよ……！」

	ル立ち上がる――ドナルド扉をしめて頭を下げる		ドナルド「……ごめんなさい。 ～ ……ぼくの知っているマッチ売りの女の子って、ラムダスさんの知ってるお隣りの人だったんだ!!」
258	頭を上げて父に近づくドナルド 暖炉の前のクリスフォードじっとうなだれている カーマイケル、ドナルドを見ながら近づく		カーマイケル「なんだって……?!」
259	クリスフォード、ピクンと動く眉と口唇		
260	ドナルドをのぞき込むように見るカーマイケル 二人、クリスフォードの方を見る		ドナルド「それに、その子、インド語を知ってるんだ」 クリスフォード(off)「……なんだと……?」
261	毛布から手を出し肘掛けを握り二人の方を見るクリスフォード 扉の方を見るクリスフォード		S・E (扉の開く音)
262	扉口に立って軽く一礼して夫た		

	ちの方へ歩くジャネットと夫人 夫婦、姉弟、顔を見合わす ラムダスが入って来る　肩にスーリヤをのせて――一礼して カーマイケル一家、クリスフォードを見る		ラムダス「御主人様！　お隣りの屋根裏に住む例の方がお見えになっています……」
263	身をのり出すようにしてうなずくクリスフォード 興奮して片方の手を毛布から出し肘掛けについて ラムダス振り返る		ラムダス(off)「……お会いして是非今までのお礼を申し上げたいと……」 クリスフォード「通してくれ給え……！　……今すぐにだ!!」 ラムダス(off)「承知しました」
264	カーマイケル夫妻顔を見合わす 扉口の方を見る二人		
265	肘掛けを握りしめ、じっと扉の方を見つめるクリスフォード 徐々にのび上がっていく はっとなる		

266	ラムダスに付きそわれて入ってくるセーラ 後で扉をしめるラムダス		
267	静かに一礼する　起き上がり		セーラ「はじめまして、クリスフォードさま…」
268	満足げに口許に微笑を浮かべて 小さくうなずく		
270	じっと見つめて 軽く頭を下げる		セーラ「……あれ程ご親切を頂きながら、こんな形で突然おうかがいした事を、どうか……お許し下さい……」
271	感心して見つめる二人　カーマイケル夫人に囁く うなずく夫人		カーマイケル「立派な挨拶だ……とてもメイドとは思えん」 夫　人「ほんとに……」
272	じっと見つめるクリスフォード		クリスフォード「……私の方こそ……丁重な手紙を頂いたお礼を申さねばなるまい…」
273	目礼する　はずかしそうに目を 下に落とすセーラ		

274	ジャネット、ドナルド、微笑して顔を見合わせる		
275	セーラ、姉弟の方を見てにっこりする　二人も微笑して答える		
276	セーラ、クリスフォードの方を見る かすかにほほえむ		クリスフォード「……ところで……君は、インドの言葉を知っているそうだが……」
277			セーラ　「はい……挨拶だけは……ずっとインドに住んでおりましたから……」
278	ぐっと身をのり出して		クリスフォード「イ……！　インドに！」
279	?!　となってうなずくセーラ		
280	じっと見つめるクリフォード 震える口唇　徐々にのり出して		
281	強く握られ――立っていく手		
282	セーラの方へ身をのり出してい		

	くクリスフォードをじっと見つ めるセーラ
283	のり出していくクリスフォード 手を懸命に上げて差し招く
284	はっとなってうなずき前に出て いくセーラ
285	セーラを呼ぶクリスフォードに 近づいていくセーラ
286	招くクリスフォードの前にくる セーラ――止まってじっと見つ める 身をのり出しもっと差し出す手 セーラ、前に出ていく、手を出 しながら
287	差し出される手　セーラの手入 ってクリスフォードの手をとる セーラの手が上から包み込む つづいてクリスフォードの手が

	その上を覆う		
289	うすく口をあけじっとクリスフォードを見つめるセーラ T・U　尻止め		
290	じっと見つめるクリスフォード		
291	じっと見つめるセーラ		
292	暖炉の火		
293	見つめ合う二人　T・B じっと二人を見つめる一同 見つめていたクリスフォード うなだれていく—(がっくりと) 手をはなす二人		クリスフォード「カ…カーマイケル君、私には聞けん……君が…… 君が聞いてくれたまえ……この子の名 前をだ……」
294	苦痛にみち、うなだれているクリスフォード —間— じっと見つめていたが、一同の前に出てくるカーマイケル		

295	じっと見つめるセーラ ゆっくりと見上げるセーラ		S・E　（カーマイケルの足音――止まる）
296	じっと見つめるカーマイケル		
297	うなだれて肘掛けをじっと握りしめているクリスフォードを見てセーラの方を見上げるボリス		
298	じっと見つめる一同		
299	カーマイケルをジッと見つめる セーラ　T・U		カーマイケル「……君の名前は……?!」 セーラ　「セーラ……セーラ・クルーです」
300	びっくっと口唇が引きしまり懸命に起き上がる……　震える口唇――呻くように……		クリスフォード「こ……この子だ!!」
301	?!　となった顔で見るセーラ		
302	強く握られる手　懸命に立ち上がろうとする　ゆれる車椅子 毛布ずれ落ちる（ゆっくりと）		

303	懸命に車椅子から立ち上がるクリスフォード氏――ジッと見つめるセーラ　T・U　尻止め		
304	じっと見つめるクリスフォード　T・U		クリスフォード「……この子が……ラルフの娘だったんだ……!!!」
305	茫然と見つめるセーラ		
306	唖然となる一同		
307	セーラを見つめるカーマイケル　T・U　見上げるセーラ		
308	見つめる目に浮かんでくる泪　安心のやわらかい笑みが口許に浮かぶ		
309	茫然と見つめるセーラ		
	O・L		
310	見つめ合う二人		
	O・L		
311	見つめるセーラ　F・O		

（おわり）